

# 大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 3.3 m・725 kg
- 寿命：40 歳
- 成熟開始年齢：11 歳
- 産卵期・産卵場：5～6 月、メキシコ湾
- 索餌期・索餌場：北緯 35 度以北の大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類等

## 利用・用途

刺身・すし等

## 漁業の特徴

主な漁業国は、米国、カナダ及び日本である。日本の漁獲は全てはえ縄、米国及びカナダではロッド&リールと呼ばれる釣り漁業が主体である。漁期は、米国が主に 7～11 月、カナダは 8～11 月である。日本の従来の漁期は 11～3 月であったが、2009 年の個別割当制度 (IQ 制) 導入ののち徐々に早まり、現在は 9～12 月である。

## 漁獲の動向

漁獲量は 1981 年までは 5,000 トン前後で推移したが、漁獲規制により 1983 年以降は 2000 年代半ばまで 2,500 トン前後となっている。2002 年に、1982 年以降で最大の 3,319 トンに達した後、1,800 トン前後で推移し、2013 年には過去最低水準 (1,482 トン) を記録した。2018 から 2020 年の総漁獲可能量 (TAC) は 2,350 トンに設定され、2019 年の漁獲量は 2,305 トンであった。

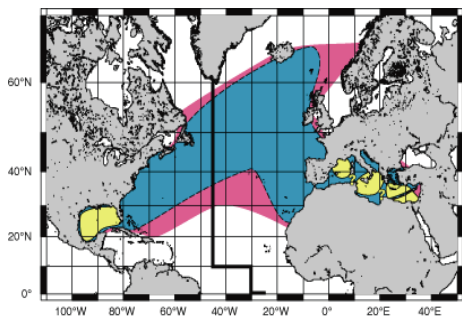
## 資源状態

ICCAT 科学委員会 (SCRS) における 2020 年の資源評価では、従来の手法である ADAPT VPA と SS3 を等しい重み付けで平均したものを採用した。1980 年代半ば以降の推定された総資源量は、ADAPT VPA と SS3 ではほぼ同じ推定値を示した。総資源量は 1980 年代半ばまで大幅に減少し、2000 年半ばまで横ばいで推移したあと、近年まで増加し続け、2016 年には 1980 年代前半のレベル (約 2.9 万トン) となったが、その後は僅かに減少している。推定された加入尾数は、SS3 の推定値の変動が VPA よりも大きい、ほぼ同様の傾向を示している。2020 年の SCRS において、近年 (2010～2015 年) の平均的な加入量及び選択率を仮定し、2021 年から 2025 年までの短期的な将来予測を行った結果、漁獲量は管理基準である  $F_{0.1}$  で漁獲した場合、1,831 トン、1,738 トン、1,678 トンと推定された。1,000 トン以上の漁獲であれば今後の資源は減少すると予測されたが、これはこれまで資源を増加させていた 2003 年卓越年級群が高齢となるため資源の中心でなくなること、2003 年以降に卓越年級群が発生していないことが要因である。SCRS は、本種資源については最大持続生産量を達成可能な資源量 ( $B_{MSY}$ ) の推定に不確実性が大きいことから、現状の資源水準を評価していないが、本資料では過去 40 年間 (1976～2015 年) の親魚量推定値から資源の水準は中位で、資源の動向は減少傾向と判断した。

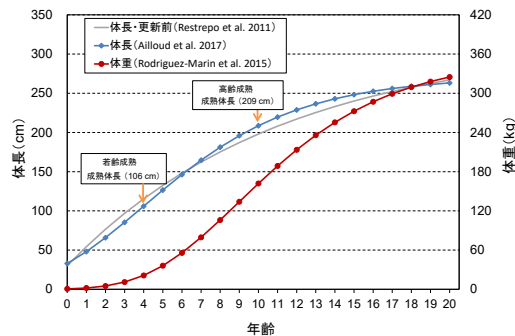
## 管理方策

ICCAT は 1998 年に、2018 年までに 50%以上の確率で資源を最適状態 ( $SSB_{MSY}$ ) に回復させるという管理目標を定めた。2020 年の ICCAT SCRS は、現状の TAC (2,350 トン) を削減させなければ 2021 年以降に  $F$  が  $F_{0.1}$  を上回る可能性が高いとし、2021～2023 年の TAC の削減を勧告した。ただし、SCRS は 2020 年資源評価における不確実性の高さから、TAC は SCRS が提供する最新の情報に基づいて毎年見直されるべきであることも勧告に加えた。SCRS の管理勧告を踏まえ、2020 年の ICCAT メール協議においては、2021 年の TAC を現状の 2,350 トン (日本は 407.48 トン) に維持する案を採択した上で、2021 年に本資源の資源評価を実施することを決定した。他の規制として、SCRS が資源崩壊の危機を認められた場合は漁業を停止、体長 115 cm (または体重 30 kg) 未満の個体の漁獲量制限 (国別に漁獲量の 10%未満とすること並びに小型魚から経済的利益を得ない方法を開始すること)、産卵場 (メキシコ湾) における産卵親魚を対象とした操業の禁止及び漁獲証明制度が実施されている。

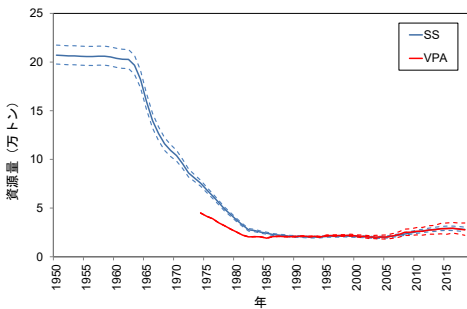
大西洋クロマグロ（西大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量（最近5年間）	1,842～2,305 トン 最近（2019）年：2,305 トン 平均：1,985 トン（2015～2019年） （投棄を含む）
我が国の漁獲量（最近5年間）	345～406 トン 最近（2019）年：406 トン 平均：370 トン（2015～2019年）
管理目標	資源量を MSY を達成できるレベルに維持する
資源評価の方法	ADAPT VPA 及び SS3
資源の状態	$F_{2015-2017} / F_{0.1} : 0.82$
管理措置	TAC : 2,350 トン（2021 年）（日本枠 : 407.48 トン） 115 cm（または 30 kg）以下の魚の漁獲量制限（10%以下、国別）、漁場・漁期の制限（産卵場における産卵親魚の漁獲制限）、漁獲証明制度
最新の資源評価年	2020 年
次回の資源評価年	2021 年



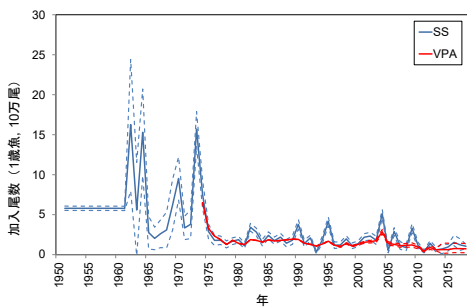
大西洋クロマグロの分布域（赤）と主要漁場（青）、産卵場（黄）  
索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の境界。



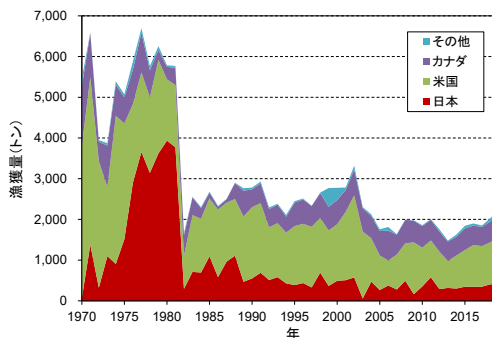
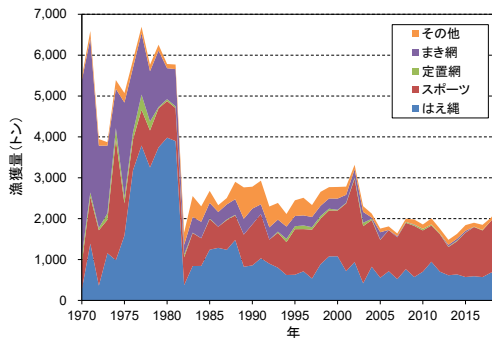
大西洋クロマグロ（西系群）の年齢あたりの体長と体重  
青は2017年の資源評価で更新された成長曲線、灰色の実線は更新前を示す。図中の矢印は成熟体長（若齢成熟または高齢成熟）を表す。赤は体重曲線を示す。



大西洋クロマグロ（西系群）の資源量の推移（1950～2018年）  
2017年の資源評価モデルでの推定資源量（全年齢の魚）。青はSS、赤はVPAの結果を示す。上下の点線間は80%信頼範囲。



大西洋クロマグロ（西系群）の加入尾数（1歳魚）の経年変化（1950～2018年）  
2017年の資源評価モデルでの推定加入尾数。青はSS、赤はVPAの結果を示す。上下の点線間は80%信頼範囲。



大西洋クロマグロ（西系群）の年別漁法別漁獲量（上）と年別国別漁獲量（下）（1970～2018年）  
漁獲量には投棄分も含まれる。